

JDドットコム(JD)

【セクター】 インターネット サービス

【市場】 香港

【企業概要】

中国のeコマース大手。主力ECサイトの「京東商城（JDモール）」を通じて家電製品や日用品を販売しています。部門別売上高構成比（22.12期）は小売が84.8%、物流が12.5%、新規ビジネスが2.0%、達達（2022年に連結子会社となった宅配サービス会社）が0.7%を占めます。主な上場子会社は、物流サービスを担うJDロジスティクス（02618）と医薬品オンライン販売を手掛けるJDヘルス（06618）で、両社はそれぞれの分野で業界のリーディングカンパニーに成長しています。

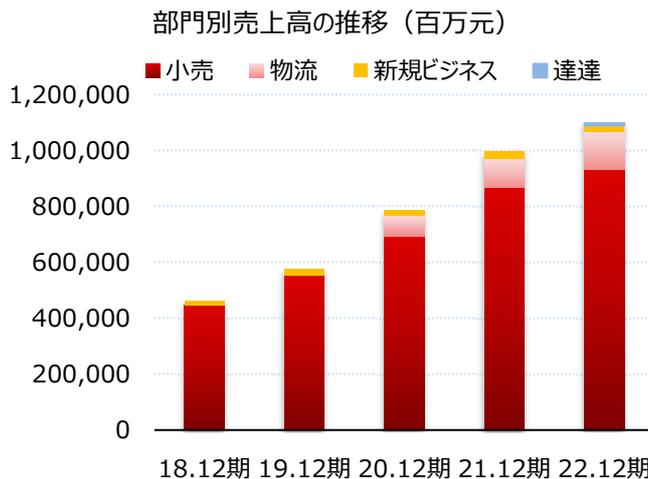
【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	951,592	8,847	5.69	0.00	134.3	-1.8	49.7
22.12期	1,046,236	19,875	12.39	4.27	136.1	4.9	46.1
23.12期（予）	1,079,601	32,959	20.97	1.44	158.9	10.9	-

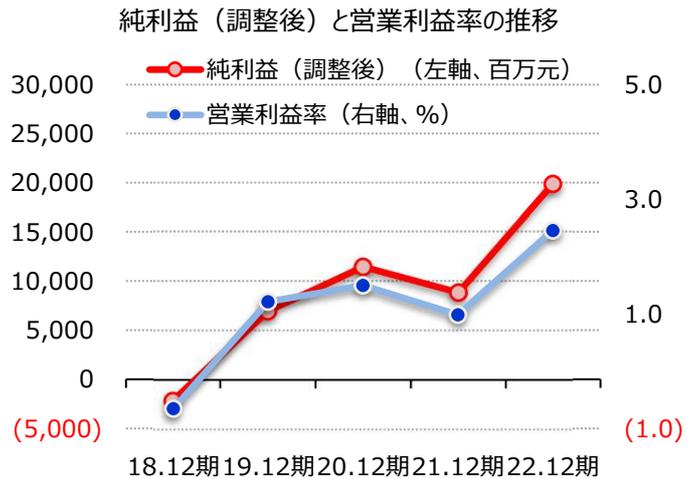
※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



（出所）会社資料よりSBI証券作成



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

中国のEC市場でアリババと並んで2強の一角をなしています。自社で商品を仕入れる直販型モデルと自社物流が強みです。18.12期までは先行投資負担が利益を圧迫しましたが、19.12期以降はスケールメリットで営業利益率がプラスに転じました。21.12期は営業利益率が前期より縮小。競争激化（後進組のピン多々からの価格競争など）への対応と今後の成長に向けた物流や中小都市への投資が高んだためです。22.12期は投資の成果もあり、業績が持ち直しました。同社はパンデミック前はスマートフォンや家電など高額商品が中心でしたが、パンデミック下およびその後の節約志向に対応するため、幅広い価格帯と商品カテゴリーを提供する戦略に転換しています。それにより今後、成長の勢いを取り戻せるかどうかが目点です。

【見通し・注目点】

3Qは売上高が市場予想を0.5%、調整後EPSは6.7元（前年同期は6.27元）と市場予想（5.87元）を14%上回りました。大規模なプロモーションが売上拡大につながった一方、関連費用は市場予想以下に抑えられ、利益率の改善につながりました。経営陣は、小売業での競争激化を認めつつも、同社のプラットフォームや利益率は大きな影響を受けていないと強調。今後も、「テクノロジーと規模の経済性を通じてサプライチェーンの効率を改善する」中長期戦略を実施していくと表明しました。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。